

地元優勝の感動届けたい

“3足のわらじ”、IH成年主将・武田



アイスホッケー成年1回戦でシュートを決める青森の武田裕大（右）14日、フラットハム



4日から始まった第80回国民スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ」冬季大会アイスホッケー競技で、青森県の成年代表で出場している武田裕大（27）。
八戸市出身で、日ごろは同市の学校法人光星学院の総務課に勤務し、22歳で就任した八戸学院大アイスホッケー部の監督を務める。地元開催となる今回の国スポには、選手・主将として“3足のわらじ”を履きながらの挑戦となる。（大西桂介）

ベテランと若手 総力結集で挑む

武田には脳裏に焼き付いている試合がある。2011年1月30日。当時は中学生で、立ち見客もいる超満員の新井田インドアリンク（現アクトルアイスパーク）で、青森の成年チームの優勝を見届けた。「選手の一挙手一投足に湧く観客の熱気がものすごかった」。今回の国スポでは、もう一度あの時の感動を届けたいと闘志を燃やす。

地元の強豪である工大一高で主将を務め、日大へと進学。卒業後に地元へ戻った。勤務先の光星学院では各種補助金の手続きなどの業務を担い、夜は監督として大学生の練習へ出向く日々が続く。

今回の成年チームは、地元実業団の社会人と県内外の大学生で構成する。「お祭り気分に参加する大学生と、優勝を目指して真剣に向き合う社会人。大会への向き合い方の違いを、うまく融合させるのが自分の役割」と武田。

ベテランとの橋渡し役として、時には大学生に厳しい言葉を掛けなければならないこともあるが、今の監

視経験が生きている。15年
以来の頂点に向け、「各選手
の気持ちに寄り添いなが
ら、コミュニケーションを
取っている。我慢させるこ
ともあるが、チームのため
にプレーしてほしい」。そ
ういった思いがチームに浸
透し、団結力は日に日に強
くなっている。

「興技を始めた4歳から
これまで日本一の経験がな
い」という武田。今大会に
懸ける思いは強く、「大学
3年で出場した地元国体で
シード権を失って以来、4
強入りを逃している。何と
しても地元で取り返す」。
競技人生の集大成として臨
む戦いが始まった。